

21PO-am411

本学薬学教育支援センターでの4年次生に対する取り組みと結果

○刀根 菜七子¹, 能田 均¹, 糸山 美紀¹, 藤岡 稔大¹ (福岡大薬)

【目的】本学薬学教育支援センターでは4年次生の成績不振者に対して主に前学期中に学習支援を実施している。今年度は従来の学習支援方法を改良し、支援センターへの出席率の向上と課題への取組状況の大幅な改善に繋がった。また、支援センターでの取り組みにきちんと参加した学生は、7月模試での成績が学習支援対象者以外の学生の学年平均にかなり近づいたことをすでに報告している¹⁾。今回はさらに10月、11月に実施された模試の結果を追跡調査し、前期に支援センターで行った学習支援の効果を検証し、来年度以降のよりよい学習支援方法の実施に繋げる。

【方法】平成30年度に支援センターでの学習支援対象者となった4年次生(31名)について、10月と11月に実施された模試の成績を追跡調査する。31名のうち20名が課題コース、11名が講義コースを選択しており、それぞれのコースに分けて結果を分析する。前期に支援センターで学習支援を実施したことにより、自主学習の習慣がしっかり身に付き、成績の向上に繋がったのかを確認する。

【結果・考察】課題コースを選択した21名のうち、全8回の課題に6回以上取り組めた学生の10月模試得点率の平均は46.0%であり、7月模試より7.2%上昇した。課題に3回以下しか取り組めなかった学生では40.1%であり、7月模試より7.0%上昇した。平均得点率、得点上昇率ともに前者の方が高値であるため、早いうちからしっかりと取り組んだ学生の方がより効果が出やすいのではないかと考えられる。11月に実施される模試の結果までを合わせて考察、発表する予定である。

1) 4年次生成績下位者に自主的な学習習慣を習得させる取り組み(第3回日本薬学教育学会大会)